



録音テープ

何が施主に 喜ばれるのか？



小川三夫棟梁

○：何ていうか、一生懸命やって、勉強しても、見てくれる人がいない。自分が（大工の世界に）入ったころは見る目のある人が何人かいた。普請道楽の人が。怒られも褒められもしたが、次を考えてくれた。それが、何ぼやっても価値が伝わらないというのは、やるほど情けなくなると思うことでもあります。

もうプレハブに飽きている人も、
多いんじゃないか。

が、いまは営業しなければ仕事ごとくなる。しかしプレハブに住んで、次建て替えるときは昔の家がいいという人が、出てくるん

じゃないか。プレハブに飽きている人も、多いんじゃないか。

○：こうなつた要因は主婦だと思う。そういう（プレハブの）家に住

あるんじゃないか。難しい時代が来るといいますが、やはり夢持って、誰にも負けない腕磨いておくことが一番でしょう。

みたいと思うんでしょ。うね。昔の大工は施主の家に夕方行って、打ち合わせして、酒飲んで、奥さんから嫌われる。台所どうなるの？ やってみないとわかんねえ！なんて。それでダメだったんだな。

○：いろいろな注文があるなんて弟子にいてもダメですよ。教えるのは切れる刃物、使いやすい道具。それを持って手を抜くことはいらない。道具に負けない仕事をする。そうやっていると、施主に喜ばれることがある。

○：考え方もやり方も新しくしなければいけないと思うが、若い職人がこうした学校で勉強しているのを見ると

新鮮だ。自分らは何も教わったことがないから。しかし、あまり教わってしまうと、そこに甘えてしまうことも

新鮮だ。自分らは何も教わったことがないから。しかし、あまり教わってしまうと、そこに甘えてしまうことも

（2月23日信州伝統大工養成セミナーの会場）

わってしまうと、そこに甘えてしまうことも

新建ハウジングプラスワン12・13Pに関連記事